



「就職活動セミナー」。
面接のポイントなどを説明し、実際に模擬体験も（写真提供：株日本財託管理サービス）

17年からは新たに「就職活動セミナー」を開催。就職先の紹介に関する問い合わせが増えてきたためだ。現在、月1回、外籍人材専門の就職エージェントの講師を招き、面接時に気を付けるポイントや言葉使い、面接官のチェック

中国人向け就活セミナーも。 実践的な内容が好評

を知っているだけで、不安が軽減します」（同氏）。勉強会は、毎回10～15名超が参加。特にカリキュラムなどを明確にしたプログラムではなく、自由に参加できる。毎回参加する留学生も多いという。

入居開始時には歓迎会も開催しているが、そうした場を利用して、日本で暮らす際にトラブルになることが多い「ミニの分別の仕方」や「騒音」についての注意も促している。「中国人は注意事項を記載した書面を配布してもあまり読んでもくれません。イベントを利用して楽しめながら伝えることができます。基本的には風習の違いが原因で本人に悪気はないため、ちゃんと教えれば気を付けてくれるようになります」（同社国際事業課・徳永明子氏）。

そのほか、中華圏で重要な祝祭日、旧暦の正月である春節や年末などに合わせた交流会も実施。春節には過去2回「饺子パーティ」を開催し、いずれも約30名が参加してぎわった。日本に来ても知らない留学生のため、同胞と交友関係を深められることに感謝する学生が多いという。中国では防災訓練の習慣がないことから、16年には、防火啓発イベントも実施した。

こうしたサービスの効果もあって、14年の同事業課起ち上げ前は60%を超えていた2年以内解約率が、16年には約30%と半減。「コミュニケーション形成の目的は入居者満足度を高める」としたが、結果的に短期解約を少しずつ抑制する効果が上がっています」（岩越氏）。

今後はよりコミュニケーション形成を促すため、アンケートで要望を聞きながら、季節に合わせて花見、紅葉狩りといった日帰り旅行なども企画する予定だという。

月に1回、日本語勉強会。 風習の違いも分かりやすく



株日本財託管理サービス
国際事業課 岩越 実夢子氏

生入居者に向けさまざまな情報をお共有できるよう、コミ

戸を管理する株日本財託管理サービス（東京都新宿区、代表取締役・重吉勉氏）は2014年、増加する外国人入居者に対応するため国際事業課を創設。15年に、中国人留学生に向けさまざまな情報をお共有できるよう、コミ

ニティ形成のサポートに注力する取り組みを開始した。

中国版LINEと呼ばれる「We Chat（微信）」を活用、さまざま

留学生たちがつくる餃子パーティ。同窓との交流が深められると好評（写真提供：株日本財託管理サービス）

（写真提供：株日本財託管理サービス）

グループをつくり、各種イベントの情報発信しているが、その一つが「日本語勉強会」だ。

入居直後の中国人留学生は、日本語学校に通い始めたばかりの人がほとんどで、日本語が堪能でないケースが多い。そこで、国際事業課スタッフの岩越未夢氏が、月1回のベースで、日常で覚えておくと役立つ会話を中心に、簡単にコミュニケーションできる日本語を教えている。

留学生向け勉強会

（株）日本財託管理サービス
(東京都新宿区)

留学生たちがつくる餃子パーティ。同窓との交流が深められると好評（写真提供：株日本財託管理サービス）

（写真提供：株日本財託管理サービス）

「例えば体調不良で病院へ行くときも、「のどが痛い」「熱がある」など、簡単に症状を説明できる程度の日本語を使いたい」と書くのは、



株日本財託管理サービス
国際事業課 徳永 明子氏

「自己アピールで、『日本と中国の架け橋にならたい』と

月刊不動産流通 2018.01

月刊不動産流通 2018.01